

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業		
事業名	狂言を楽しむ「茂山一門の世界」				
目的・内容	<p>〔目的〕恒例となった狂言公演を開催することで、熱烈的な愛好者の期待に応えるとともに、古典芸能に興味のある方々に鑑賞の機会を提供する。また、芸術宅配便事業、県からの委託事業である古典芸能講座及びワークショップを行うことで、青少年から年配の方まで幅広く日本の代表的な伝統文化への関心と興味を引き立て、愛好者の全体的な更なる継続拡大を図ることを目的とする。</p> <p>【使命】「文化人口の拡大とレベルアップ」</p> <p>【事業企画の柱】「鑑賞公演の多様化及び鑑賞公演とワークショップを連携させた事業の展開」</p> <p>〔内容〕①茂山一門による狂言教室 ②狂言を楽しむ「茂山一門の世界」</p>				
開催日時	平成19年10月1日(月)18:30開演				
会場	鳥取県民文化会館梨花ホール				
入場料・参加費 (友の会)	特等席 5,000円 (4,500円)	一等席 4,500円 (4,000円)	二等席 3,500円 (3,000円)	三等席 3,000円 (2,500円)	高校以下1,000円 (1,000円)
集客状況	入場者数 630名	設定席数 1,502席	集客率 41.9%		
事業費状況	予算額	収入 3,885,000円	支出 4,170,000円	収支比率 93.2%	
	決算額	収入 2,551,000円	支出 3,055,735円	収支比率 83.4%	
来場者アンケート (主なもの)	<p>〔主な意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても雰囲気の良い、楽しい舞台でした。声も心地よく、のびやかで、今まで見た狂言のなかでいちばんくつろいで楽しく見ました。また見たいです。待ってます。 ・実際に見るのは初めてだったが、とても楽しめた。笑いが自然におき、普通におもしろい。とても良い気分になれたし、嬉しい気分にもなった。これならまた見たい。 ・舞台の設営も楽しみの一つです。特等席を買いに行きましたが「一等席のこの席がありますが」と丁寧に対応していただき、良い席で拝見できました。 ・静かに出来ない子は制限してください。携帯電話のバイブレーターも注意してください。 ・毎年狂言は冬だったので、今年は10月でよかった。 ・以前のように親子席があるとよい。小さな子には解説が必要です。他のお客さまのあまり迷惑のかからない場所があるといいです。 				
1次評価 (内部)	<p>〔成果〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①メディアミックスによる広報宣伝、口コミなどにより、新規顧客の掘り起こしができた。 ②狂言教室では、これまでに狂言も観た事のない方々に狂言を体験してもらう良い機会になった。 ③会館レストランへのチケット提示による食事割引きという新しい取り組みができた。 <p>〔課題〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①愛好者の高齢化、リピーターの減少、目玉曲目の弱さ、毎年開催による事業推進のマンネリ化など、弊害がでてきている。 ②会館全体で販売促進できるような雰囲気の盛り上げが必要であり、広報マーケティング担当との綿密な調整が必要。 ③本公演の前に「狂言ワークショップ」を行ったが、会場及び茂山狂言会との調整の結果、倉吉での開催、本公演開催までに日があったためか、参加者全体を本公演へ導くことは少し難しかった。 				
2次評価 (財団評議員)	<p>〔成果〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①古典芸能には広すぎると思われる空間も、舞台の熱演と観客の反応でうまく埋められた。 ②変化のある演目に、観客をあきさせぬ工夫があった。若者も面白い趣向もあり、会場を沸かせた。 <p>〔課題〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①時折観客席から子どもの声が聞こえた。入場のときにチェックし、場合によっては、ガラス張りの部屋などに案内するなどの必要がある。 ②鳥取に根付いたこの灯を消さないように、継続を望む。 ③ワークショップを芸術宅配便事業などと絡めることは出来ないのだろうか。 ④茂山一門にこだわっても良いが、狂言は400人ぐらいで観るほうがベストと思うので、新しい取り組みがそろそろ必要かと思う。 				
今後の対応	<ol style="list-style-type: none"> ①茂山狂言にこだわらず、古典芸能という大きな枠の枠の中で継続開催を検討していく。 ②古典芸能の新しい鑑賞者開発ができるよう検討していく。 ③早い時期に調整作業(日程押え及び、曲目要望・選定)を行う。会場の大きさなども検討する。 ④大曲や季節に合わせた妖怪狂言、新作狂言など取り入れ、企画に工夫をしていく。 ⑤入場時のチェックを徹底し、より良い観劇の環境作りをおこなっていく。 ⑥営業活動のスタートを早くし、財団全体で販売促進していけるようなシステムを作り、創意工夫して販売していく。 				